

研究主題

豊かな生活につながる授業づくり

～各教科等を合わせた指導の授業改善を通して～

1 主題設定の理由

本研究グループには、様々な実態の児童が在籍し、毎日の活動に目標をもって取り組んでいる。一人一人の児童が生き生きと、自立に向かって着実に経験を積み上げることができるような授業づくりを目指している。日々の授業が豊かな生活そのものとなり、その継続が自立へとつながるものと考え、本研究テーマを設定した。

2 推進計画<2年次目の研究推進計画(経過)>について示す。

月 日	研究活動	内 容
4月20日	第1回全校研究会	
5月17日	グループ研究	グループ研究の進め方について確認
6月20日	グループ研究	授業者の決定、チェックシートと略案について検討
7月19日	授業研究会	日常生活の指導「帰りの活動」 授業者:杉村優花
8月29日	学部研修会(わかば、あすなる合同)	「音楽療法がもたらす効果と指導の実際」
9月15日	合同授業研究会	日常生活の指導「帰りの指導」授業者:田結香 自立活動「どれみタイム」授業者:森川陽子
10月25日	授業研究会	日常生活の指導「帰りの指導」授業者:藤佑果
11月16日	ICT 研修会	ICTを活用した事例発表会
12月12日	授業研究会	自立活動「あすなるタイム あすなるの WA」授業者:小山愛
1月23日	グループ研究	なのはなグループ研究のまとめ
2月14日	全校研究会	研究のまとめ

3 なのはな学級における、めざす「豊かな学び」の姿

- ・「人、もの、こと」に興味・関心をもち、自ら進んで活動に取り組む姿
- ・学びを生活に生かそうとする姿

(1) 日常生活の指導における「人、もの、こと」

- ・「人」は、誰と一緒に行動のかが分かり、誰かと一緒に行動ができるようになることが「協力」へとつながる。「もの」は、道具の正しい使い方を理解し、使えるようになることが「より良い方法を選択する力」へとつながる。「こと」は、何をするのかが分かることが「手順を理解し、見通しをもって活動・生活できる力」へとつながる。と考える。

(2) 各発達段階における目指す姿

- ・5月のグループ研究会で、低学年、中学年、高学年の各段階から1授業ずつ提案することが決定し、それぞれの学年内の職員で各発達段階における、具体的な目指す姿について話し合いを進めた。以下の表にまとめる。以下のような姿を育むことを教師間で共有し、研究を進めていくこととした。

低学年（1・2年）	中学年（3・4年）	高学年（5・6年）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示物や教師の声掛け、友達の様子から何をするのか分かる。 ・ 周囲の情報から気付いたことや知ったことを自らやってみようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物の扱いや物事の手順について正しさや効率の良さを意識することができる。 ・ 正しさや効率の良さについて、自分の力では難しい場合には、教師や友達に自分から依頼することができる。 ・ 理解している活動に最後まで取り組みることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物を正しく扱おうとし、物事の手順について効率の良さと丁寧さを意識することができる。 ・ 時間や周囲の状況に気付き、自分自身の活動について考えることができる。 ・ 自分の思いや考え、自分でできることを進んで表現することができる。

4 1年次目の研究概要

(1) 研究内容

- ・ 遊びの指導の授業改善

(2) 研究方法

- ・ 遊びの指導の授業実践と授業研究会
- ・ 指導と評価の一体化に基づいた指導略案の作成
- ・ 個人別チェックシートを使用した実態把握と児童の変容の見とり

(3) 研究実践

ア 授業研究会の実施

なのはな1・2学年：遊びの指導 題材名「いろいろぬりぬり」（絵の具遊び）

指導者：佐藤詩織 他3名

5 2年次目の研究実践

(1) 研究方針

① 研究内容

- ・ 日常生活の指導、特に掃除を含む「帰りの活動」の授業改善。1年次の取り組みを土台にして取り組む。
- ・ 授業改善を通して、各学年における目指す児童の姿を明らかにする。
- ・ 目指す児童像に近づくための児童との関わり方に関するポイントについて共有する。

② 研究方法

- ・ 低学年、中学年、高学年の学びの系統性を意識した授業づくりの検討。
- ・ 研究授業、授業研究会の実施。
- ・ 授業改善のための支援方法や手立て、目指す姿について意見交換。
- ・ PDCAサイクル、KJ法を活用した授業改善。

(2) 研究実践（指導計画立案と授業実践）

- ・ 低学年、中学年、高学年から日常生活の指導「帰りの活動・帰りの会」の授業を各1回提案するものとし、指導略案の作成とビデオ撮影を行った。

指導略案作成の観点

- ① 学年段階での目指す姿を念頭に置き、指導略案のねらいに位置づける。
- ② 学年間の系統性を意識し、指導計画やねらいに反映させる。
- ③ 1年次目に引き続き、「指導と評価の一体化」のための学習評価基準と評価方法を明記する。

(3) 授業研究会

- ・授業研究会は、なのはなグループとわかばグループが合同で行い、より広い視点で検討できるようにした。
- ・なのはなグループとわかばグループの人数に偏りがないように4～6のグループにグルーピングし、KJ法を通して、授業改善のための新たなアイデアの意見交換、有効な手立てと目指す児童の姿について共有した。

なのはな6組 7月13日(木)6校時 日常生活の指導 「帰りの活動・帰りの会」 指導者 杉村優花他1名

*授業者から

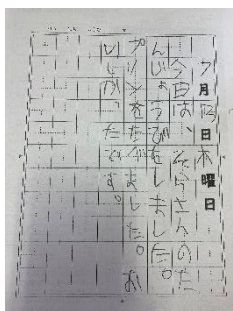
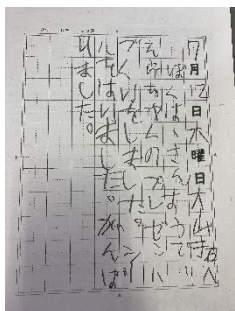
6年生は、中学部に向けて一步進んだ姿を目指している。正しく道具を使用すること、身だしなみを整えること、自分の思いを自分の言葉で発表することで、一日を振り返ることができるように継続的に取り組んでいる。高学年として、5年生と支援について共有することも意識している。

<参考にしたい手立てや支援>

- ・バケツに入れる水の量が分かるように、テープで印をつける。
- ・掃き掃除や雑巾掛けをする場所が分かるように、床にテープで印をつける。
- ・後ろ向きで雑巾をかけることで、自分の拭き残しに気付くことができる。
- ・少ない人数で二か所の掃除を行っていて、一人一人の活動量が十分確保されている。
- ・ちりとり用の小ぼうきが使いやすい。
- ・教室以外の掃除をする経験は、将来の仕事につながる。
- ・掃除の流れが分かっているため、児童に任せて行っている。
- ・タイミングのよい声掛け。前向きな声掛け。最低限の声掛け。称賛。終わりのタイミングを予告。
- ・その場で着替えができるように、黒いマットが準備してある。
- ・ファスナー、紐、ボタンなど児童によって工夫された着替えかご。
- ・運動着と私服のかごを分けることで、より分かりやすい。
- ・好きなことができる時間を励みに頑張ることができていた。
- ・連絡帳の裏面に振り返りを記入し、自分で連絡帳に綴じるところまでがしっかり定着している。
- ・難しいことや不十分なところを自分から教師に依頼している。
- ・主体的な行動を見守りつつも、苦手な部分(気を付けや礼)に関しては、声を掛けていた。
- ・一人一人の活動内容が明確で、分かりやすい。
- ・連絡帳の裏面にその日の振り返りを書くことによって、成長の様子が分かりやすく、保護者にも学校の様子が伝わる。

<新たなアイデア>

- ・階段掃除のためのチラシを目立つ色にすることで、集める意識が高まるのではないかな。
- ・机や椅子の正しい持ち方を意識できるように、写真などがあるといいのではないかな。
- ・階段の隙間にゴミが引っかかっていたので、掃除機を使用してはどうか。
- ・掃除に関して、児童の見守りも大切ではあるが、共同作業者でありたい。
- ・ぞうきんがけや机拭きの拭き残しについて、端から端までという概念を形成するための手立てを普段から。
- ・床のマス目を増やすことで、拭き残しが減るのではないかな。
- ・着替え後の身だしなみをお互いにチェックし合う。
- ・着替え後の身だしなみをiPadで写真を撮ってチェック。
- ・最低限の声掛け。(自分で確認できる手順表の提示や質問の仕方の指導)
- ・書いた日記を帰りの会で読んで発表することで、自分で再度振り返ることや書いたものを生かすこともできる。忘れてしまったときでも自分で振り返ることができる。できるようになったらステップアップし、思い出して発表する形にしてみてもどうか。
- ・発表をするときの話し方や礼の仕方などの指導(相手とタイミングを合わせる間の取り方や礼の仕方など、発表場所を変えることでメリハリをつける、カウントしながら礼をする)
- ・司会の児童が次第を忘れたときに確認するための支援具があるとよい。
- ・教室から出る際は、「〇〇に行きます。」戻ったときは、「ただいま」などと伝えることができるとよい。



***協議1 5・6年段階で目指す児童の姿**

◎自分で気づき考え、自分から行動する姿

- ・活動に見通しをもち、変化にも対応できる。
- ・全てが終了するまで集中して取り組み、最後に報告ができる。
- ・身なりや姿勢が整っている。
- ・相手を意識した行動ができる。

***協議2 有効と思われる教師の関わり方**

- ・見通しをもって活動するための視覚的な支援の提供、見直しや削減。
- ・個に応じた支援具の提供。
- ・毅然として見守る姿勢。
- ・適切なタイミングでの具体的な称賛。
- ・他者として社会人として大人としての視点での前向きなアドバイス。

***助言(安久都副校長)**

目指す児童像が明確で、三観点がしっかり示されている。自ら動くことができるような支援の工夫が多く、とてもよいと思う。研究テーマである「豊かな生活につながる授業づくり」ということで、豊かな生活に必要な生きる力を育むには、主体的、対話的で深い学びによるところと感じている。児童同士、あるいは教師との対話ができるような工夫があるといい。



なのはな3組 9月13日(水)5校時 日常生活の指導「帰りの活動・帰りの会」 指導者 岳結香他1名

***授業者から**

3年生では、自分からできる場面が増えるような環境づくりを心掛けている。また、自分で解決することが難しいときには、自分から「お願いします。」と援助を求めることができるように支援している。

<参考にしたい手立てや支援>

- ・ぞうきん掛けの回数をマグネットでカウントしていて、分かりやすい。
- ・児童の実態に合わせた道具の使用。
- ・ほうきを動かすときの声掛けが分かりやすい。(「シュー」「ピタ」)
- ・床を拭くときの目印を掃除のときだけ使用している。
- ・腰を上げて、膝を上げてという声掛けで自然と力の入る床拭きの姿勢になっているため、体力づくりにもなる。
- ・同じ場所で着替え続けることができるように、棚に向かって場の設定をしていた。
- ・「脱いだら着る」という統一された声掛けをしていて、子児童も覚えやすい。
- ・注目できるように、空間を狭くして帰りの会を行っていた。
- ・「タブレットができる。」という目標があることで、自分で頑張ろうという意識意欲付けになっている。
- ・床に足マークがあり、床に足をつけて座ることを意識していた。
- ・手遊びが始まるとタブレットを自分から片付けていた。
- ・発表のとき「〇〇さんは、なんて言った？」と聞いていて、話を聞こうと思えるし、発表した児童も承認された気持ちになる。友達に注目できるように支援している。
- ・「〇〇が楽しかった。」との発表をもう少し詳しく言えるような質問をしていた。
- ・発表のときに一日の振り返りができるような声掛けをしていた。

<新たなアイデア>

- ・ぞうきん掛けの目印のマグネットをあえて連続させないことで、広く掃除ができるのではないかと。
- ・自在ほうきがちりとりより長く、ごみが入りきらない。道具が実態に合っているか再検討。
- ・ごみを集める位置を検討。壁際だと散らかりにくい。
- ・掃除機を使うと掃除が苦手な児童でも喜んで掃除をする。ほうきが使えなくても掃除機のスイッチを入れたり切ったりすることで自分ができることがある。
- ・掃除機やクイックルワイパーなど将来実際に使用するものを使用。
- ・机の位置の目印テープが直線だったため、『 』の形にしてもいいのでは。

- ・「気を付けピッ」と号令していたが、「ピッ」はなくてもできるのではないか。
- ・児童にできることを帰りの会の役割にしてもいいのではないか。

***協議1 3・4年段階で目指す児童の姿**

- ◎物や人などの周囲の状況をヒントにし、自分から行動する姿
- ・毎日の流れを理解し、少しずつ支援が減っても同じように行動できる。
 - ・困ったときには、依頼したり助けを求めたりすることができる。
 - ・必要な支援を受けながら、できるだけ自分で、身なりや姿勢を整えることができる。
 - ・教師や友達を意識し、必要な情報を得ながら自分から行動しようとする。

***協議2 有効と思われる教師の関わり方**

- ・見通しをもって活動するための支援の提供、見直しや削減。
- ・個に応じた支援具の提供。
- ・バランスのよい支援と見守り。
- ・適切なタイミングでの具体的な称賛。
- ・できているところに目を向け、失敗しても大丈夫だと思えるような雰囲気と姿勢。

***助言(安久都副校長)**

3人とも自分のやること分かり、十分に取り組んでいた。自分でできる部分では、支援を減らしていくことも必要。帰りの会是对話もあり、学びも深まっていた。掃除に関しては、自分たちで汚したものは、自分たちできれいにするという思いを育むことが大切。教師も同じ思いをもち、一緒になって分担しながら、手本を示す必要がある。



なのはな1組 10月25日(水)5校時 日常生活の指導 「帰りの活動・帰りの会」 指導者 藤佑果他2名

***授業者から**

全体に理解力のある児童であるため、挨拶をすることや行き先を告げてから教室を出るなどの基本的なことについては、最初のルールづくりを大切にしている。低学年、特に1年生の段階では、最初から正しいやり方を求めず、「やろう。」「やってみよう。」という気持ちを育てることに重点を置いている。

<参考にしたい手立てや支援>

- ・最小限の声掛け。
- ・教師の動きは控えめで、子どもの活動量が多くて良い。
- ・教師も一緒にほうきやぞうきんを持って活動。
- ・体の大きさに合わせた道具の使用。(小さいほうき)
- ・ごみの移動距離が短く中央にごみを集める。
- ・ぞうきんを洗う係など、係として任せることで自分から行動。
- ・定着するように、同じ流れの活動を毎日繰り返す。
- ・立ち歩かないような机と椅子の配置。
- ・友達の様子を見て手掛かりにできるような支援。(ぞうきん掛けの数字の目印)
- ・終了後に言葉でのフィードバック。
- ・どこに移動すればいいか分かるように色分けされた椅子の印。
- ・手が止まっている児童への温かい声掛け。

- ・現段階での児童の成長を認める。(ほうきの使い方や衣服のたたみ方は、次のステップ)
 - ・かごを椅子に置くことで机が広くなり、衣服がたたみやすい。
 - ・上を脱いだら上を着るの指導。
 - ・一人でやろうとすることを見守り、できているところは称賛。
 - ・スケジュールと実際に使用した教材を見せながらの振り返り。
 - ・三つの中から選んで振り返るスタイル。
 - ・人と同じ振り返りにならないような声掛け。
 - ・実態に合わせた発表の仕方を指導。
 - ・自信につながる花丸カード。
 - ・実際に学習したプリントを使用しての振り返り。
 - ・詳しく振り返ったり発表したりできるような声掛け。
 - ・振り返りに十分な時間を使用。
 - ・質問や発言の読み取りがゆっくり丁寧。
 - ・待ち時間の使い方。(ノーメディアでチラシやぶり)
 - ・教師と児童のよい雰囲気。
 - ・児童の興味に合わせたチラシを選択することで、チラシやぶりも楽しく。
 - ・注目させてから話し始める。
- <新たなアイデア>
- ・ごみを捨てるまでが一連の流れ。ちりとりも児童の仕事に。
 - ・帰りの歌を替え歌にして、「ほめタイム」に。
 - ・その日のメイン活動や初めての活動を写真に撮り、帰りの会で振り返ることで活動と言葉スケジュールカードの意味につながりをもてる。

***協議1 1・2年段階で目指す児童の姿**

- ◎教師や友達との温かい関係や穏やかな雰囲気の中で、安心感をもち、自信をもって自分から行動しようとする。
- ・毎日の流れを理解し、教師の支援や称賛を受け入れながら、自分でできることをやろうとする。
 - ・自分が困っていることが分かり、依頼や助けを求める方法を身に付ける。
 - ・必要な支援を受けながら、身なりや姿勢を整えることができる。
 - ・大切な部分に注目する方法を身に付け、必要な情報を得ながら行動しようとする。

***協議2 有効と思われる教師の関わり方**

- ・見通しをもって活動するための支援の提供、見直しや削減。
- ・個に応じた支援具の提供。
- ・バランスのよい支援と見守り。
- ・適切なタイミングでの具体的な称賛。
- ・温かい雰囲気と受け止める姿勢。

***助言(安久都副校長)**

今できていることを認め、言葉を大切にしながら行われている授業だった。実態把握がしっかりとされていて、一步一步積み重ねていることが分かった。今は、これでいいと思うことは大切。正しく、こうあらねばならないと思うことは、できない人をつくる。帰りの会のポイントは、一日を振り返り、「明日も学校に来たい。頑張りたい。頑張ろう。」と思えるようにすること。令和の日本型学校教育では、全ての子どもたちの可能性を引き出す。教師は、子どもの主体的な姿を支援し、引き出す伴走者としての能力が求められている。教師が楽しそうに一緒に活動することで、働くことや人の役に立つことのよさを感じられる。



(4) 個人別チェックシートで見る授業実践

- ・学級ごとの個人別チェックシートは、下記の通り。コミュニケーションと行動問題についてもチェックを行ったが、今回は、研究授業に関わる項目のみを掲載する。集団ごとにチェック項目が同じ場合は、まとめて掲載し、個人ごとにチェック項目が異なる場合は、一人ずつ掲載している。6月から12月までの間に一つでもポイントが上がった項目を、評価の欄を青で塗りつぶした。

個人別チェックシート (なのはな1組)					
①学習活動のチェックリスト					
観点	課題項目	O.H評価	S.K評価	N.K評価	S.K評価
掃除	口進んで正しい持ち方でいすを運ぶ。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1
	口進んで正しい持ち方で机を運ぶ。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5・4・3(2)1	5(4)3(2)1
	口ほうきで決められた場所にごみを集める。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1
	口お尻をあげてぞうきん掛けをする。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1
着替え	口上着を脱ぎ着することができる。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5・4・3(2)1	5(4)3・2・1
	口立ってズボンを脱ぎ履きする。	5(4)3・2・1	5(4)3(2)1	5・4・3(2)1	5(4)3・2・1
	口前後正しく着替える。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5・4・3(2)1	5(4)3・2・1
	口裏返しを直す。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5・4・3(2)1	5(4)3・2・1
帰りの会	口脱いだ衣服をたたむ。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5・4・3(2)1	5(4)3・2・1
	口楽しかった活動や頑張った活動を選ぶ。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1
	口言葉やジェスチャーで発表する。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1

個人別チェックシート (なのはな2組・3年)					
①学習活動のチェックリスト					
【5一人で○ 4部分の声掛けで一人で○ 3部分的支援で○ 2全面的支援で○ 1全面的支援でも×】					
観点	課題項目	D.Y 評価	K.T 評価	Y.S 評価	
掃除	口一人で机やいすを運ぶ。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5・4・3(2)1	
	口ほうきで決められた場所にごみを集める。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3(2)1	
	口ほうきを使ってちりとりにごみを入れる。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口まっすぐぞうきん掛けをする。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
着替え	口上着を一人で脱ぎ着できる。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口ズボンを一人で脱ぎ着できる。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口脱いだ服をたたむ。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3(2)1	
	口脱いだ服をかごに入れる。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
帰りの会	口次第をめぐったり、声を出したりして、司会をする。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3(2)1	
	口がんばったことを選び、発表する。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3(2)1	
	口話している人を見て、話を聞く。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	

個人別チェックシート (なのはな3組)					
①学習活動のチェックリスト					
観点	課題項目	O.S 評価	K.T 評価	T.R 評価	
掃除	口机を持ち上げて運ぶ。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口正しい持ち方で椅子を運ぶ。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口自在ほうきを正しく持つ。	5(4)3・2・1	5(4)3(2)1	5(4)3・2・1	
	口目標の物や場所に向かって、ごみが無くなるまでごみを集める。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口雑巾を10回しぼる。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口雑巾の仕上げ絞りを教師にお願いすることができる。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口教室の端まで3往復して床を拭く。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口膝を上げて雑巾掛けをする。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3(2)1	
着替え	口下着をズボンの中に入れる。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口洋服の前後を確認して着る。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口脱いだ衣服を畳む。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口脱いだ衣服から着る衣服にハンカチ・ティッシュを移す。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口裏返しを直す。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口畳んだ服をかごに入れる。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
帰りの会	口指示を聞いて礼・着席する。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口話している人に体を向け、話を聞く。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口絵カードを見て、楽しかった活動や頑張った活動を発表する。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	
	口司会を言葉や身振りで行う。	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	5(4)3・2・1	

個人別チェックシート (なのはな4組)					
①学習活動のチェックリスト					
観点	課題項目	I.R 評価	課題項目	S.K 評価	
掃除	口自在ほうきを正しく持つ。	5(4)3・2・1	口自在ほうきを正しく持つ。	5(4)3(2)1	
	口ごみがなくなるまで一か所に集める。	5(4)3・2・1	口ごみがなくなるまで一か所に集める。	5(4)3・2・1	
	口移動しながら、教室全体の雑巾掛けをする。	5(4)3・2・1	口移動しながら、教室全体の雑巾掛けをする。	5(4)3・2・1	
	口前の人に続いて雑巾掛けをする。	5(4)3・2・1	口前の人に続いて雑巾掛けをする。	5(4)3・2・1	
	口水が出なくなるまで雑巾を絞り、干す。	5(4)3・2・1	口水が出なくなるまで雑巾を絞り、干す。	5(4)3・2・1	
	口水が出なくなったかの確認を依頼する。	5(4)3・2・1	口水が出なくなったかの確認を依頼する。	5(4)3・2・1	
着替え	口自分以外の机や椅子を運ぼうとする。	5(4)3・2・1	口自分以外の机や椅子を運ぼうとする。	5(4)3・2・1	
	口運んだ机を決まった位置に配置する。	5(4)3・2・1	口運んだ机を決まった位置に配置する。	5(4)3・2・1	
	口ハンカチとティッシュを入れ替える。	5(4)3・2・1	口裏返しにならないように脱ぐ	5(4)3・2・1	
	口かごを片付け終わったら報告する。	5(4)3・2・1	口脱いだ衣服を畳む。	5(4)3・2・1	
	口シャツの裾をズボンの中に入れる。	5(4)3・2・1	口衣服の前後を自分で確認してから着る。	5(4)3・2・1	
	口報告が終わってから、おしゃべりをする。	5(4)3・2・1	口シャツの裾をズボンの中に入れる	5(4)3・2・1	
帰りの会	口立ったまま全ての着替えをする。	5(4)3・2・1	口畳んだ衣服をかごに入れ、優しくかごを片付ける	5(4)3・2・1	
	口一か所にとどまったまま、最後まで着替える。	5(4)3・2・1	口一か所にとどまったまま、最後まで着替える。	5(4)3・2・1	
	口指示を聞いて起立・礼・着席する。	5(4)3・2・1	口指示を聞いて起立・礼・着席する。	5(4)3・2・1	
	口話している人に体を向け、話を聞く。	5(4)3・2・1	口話している人に体を向け、話を聞く。	5(4)3・2・1	
	口日課を振り返り、楽しかったことや頑張ったことを発表す	5(4)3・2・1	口日課を振り返り、楽しかったことや頑張ったことを発表す	5(4)3・2・1	
	口次の日の日課を大きな声で読み上げる。	5(4)3・2・1	口友達の様子を確認して、元気に挨拶をする。	5(4)3・2・1	

個人別チェックシート (なのはな4組)				
①学習活動のチェックリスト				
観点	課題項目	S.S評価	T.T評価	
掃除	<input type="checkbox"/> 自在ぼうきを正しく持つ。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 自在ぼうきを正しく持つ。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> ごみがなくなるまで一か所に集める。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> ごみがなくなるまで一か所に集める。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 移動しながら、教室全体の雑巾掛けをする。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 高遣いの姿勢で雑巾掛けをする。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 前の人に続いて雑巾掛けをする。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 前の人に続いて雑巾掛けをする。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 水が出なくなるまで雑巾を絞り、干す。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 雑巾を洗うことを身振り依頼する。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 水がでなくなったかの確認を依頼する。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 絞った雑巾を干す。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 自分以外の机や椅子を運ぼうとする。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 机を両手で持ち上げて運ぶ。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 運んだ机を決まった位置に配置する。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 運んだ机を自分の位置に置く。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> ハンカチとティッシュを入れ替える。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 裏返しにならないように脱ぐ。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> かごを片付け終わったら1度だけ報告する。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 服いだ衣服を畳む。	5・4・3・2・1
着替え	<input type="checkbox"/> シャツの裾をズボンの中に入れる。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 衣服の前後を確認してから着る。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 報告が終わってから、おしゃべりする。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> シャツの裾をズボンの中に入れる。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 畳んだ衣服をかごに入れ、優しくかごを片付ける。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 畳んだ衣服をかごに入れ、かごを片付ける。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 一か所にとどまったまま、最後まで着替える。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 一か所にとどまったまま、最後まで着替える。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 指示を聞いて起立・礼・着席する。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 指示に合わせて、起立・礼・着席をする。	5・4・3・2・1
帰りの会	<input type="checkbox"/> 話している人に体を向け、話を聞く。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 体を起こして話を聞く。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 日課を振り返り、楽しかったことや頑張ったことを発表す	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 絵カードを見て、楽しかったことを選択する。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 身振りや言葉で司会を進行する。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> タイミングよく次カードをめくる。	5・4・3・2・1

個人別チェックシート (なのはな5組)				
①学習活動のチェックリスト				
観点	課題項目	M.K評価	H.H評価	
掃除	<input type="checkbox"/> 横に移動しながら雑巾掛けをすることができる。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 高遣いで雑巾掛けができる。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 次に拭く場所を確認しながら、雑巾掛けができる。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 次に拭く場所が分かり、まっすぐ拭くことができる。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 自分から次の掃除の準備ができる。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 次の掃除の準備ができる。	5・4・3・2・1
着替え	<input type="checkbox"/> ズボンを腰まで上げることができる。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 下着の裾をズボンの中に入れることができる。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 衣服の前後に気付き、直すことができる。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 靴の左右を間違えずに履くことができる。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 自分から着替えの準備ができる。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 着替えの準備ができる。	5・4・3・2・1
帰りの会	<input type="checkbox"/> 日直を丁寧に進めることができる。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 「始めます」「終わります」のマカトンができる。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 身振り手振りを加え、頑張ったことを発表することができる。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 頑張ったことをカードの中から1つ選ぶことができる。	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 話している人に注目し、拍手をして参加することができる。	5・4・3・2・1	<input type="checkbox"/> 話している人に注目することができる。	5・4・3・2・1

個人別チェックシート (なのはな6組)				
活動	課題項目	T.T評価	S.K評価	O.T評価
掃除	<input type="checkbox"/> 自在ぼうきを正しく持つ。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 自在ぼうきで、体と水平になるように掃く。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 自在ぼうきで、前に進んで掃く。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 雑巾を絞る。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
着替え	<input type="checkbox"/> 拭き残しがなく、床を拭く。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 上着、ズボンの順に着替える。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 裾と裾、袖と袖を合わせて畳む。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
帰りの会	<input type="checkbox"/> 畳んだ服をかごに入れる。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 連絡帳に、一日の振り返りを書く。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 礼をしてから、発表する。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 正しい言葉遣いで発表する。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1
	<input type="checkbox"/> 腰から礼をする。	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1	5・4・3・2・1

4 実践のまとめ

(1) 成果

- 6年を通して、毎日繰り返される場面を題材にしたことで、成長の過程や実態に応じた取り組み方について、改めて考える機会となった。
- 全クラスでチェックシートに取り組んだことで、チェックシートが学年や実態に応じた目標設定や児童の変容を可視化するための一つのツールとなった。
- 低学年、中学年、高学年という枠組みでの授業提案を行ったことで、関係職員間での話し合いが活発になり、内容を即実践に生かすことができた。
- 各発達段階での日常生活の指導における具体的な目指す姿や教師の関わり方について共通理解を図り、授業づくりや指導支援の参考にすることができた。

(2) 課題

- 授業研究会後の実践・結果(効果)を互いに知る機会
- 授業提案者の、指導案作成をはじめとする業務負担の軽減。
- 研究授業や授業研究会に限らない柔軟な形での学部研究のもち方の検討。
- 日常の課題や子どもたちの困り感に直接的に寄り添う形の研究のあり方の検討。

- 授業研究会の中で、着替えの手順や掃除の仕方などを校内でマニュアル化してはどうかという意見もあったが、家庭との連携などそのときの状況を考慮する必要があり、形にすることは、難しかった。

(3) 終わりに

本研究は、昨年度の研究主題を引き継ぎ、昨年度の課題であった「グループ全体での研究とすること」を特に意識しながら取り組むことができた。主題設定の理由にも記載した通り、日常における積み重ねこそが大切な経験であり、その継続が自立へつながっていくものと確認した。毎日繰り返される活動の中に、自分で考え行動し、自信をもって取り組むことができることが増えていくことで、児童の生き生きとした姿を引き出すことができ、生活そのものが豊かになってくものと感じた。今研究を通してグループで共有した「目指す児童の姿」と「有効と思われる教師の関わり方」を意識し、今後も児童の豊かな生活につながる授業づくりに取り組んでいくものとする。

参考文献

- ・ 教育課程研究センター 文部科学省国立教育政策研究所（2020）『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 生活科』東洋館出版社
- ・ 青山真二編 北海道教育大学附属特別支援学校著（2019）『アセスメントで授業が変わる 特別支援学校・学級で生かす理解と支援のアイデア』 図書文化社

